

3-1 認知症施策の充実

現状・課題

社会的背景

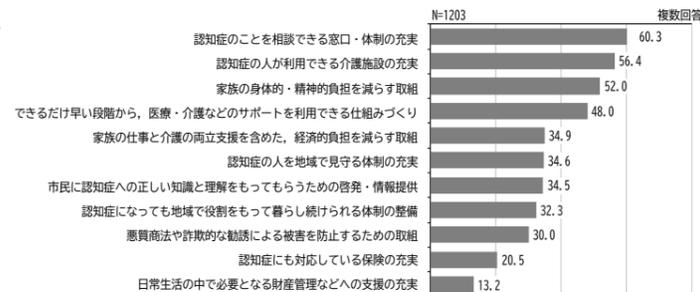
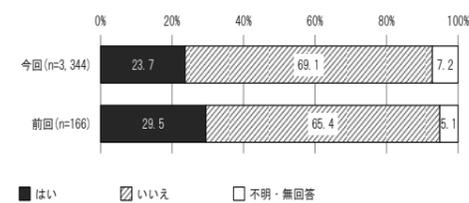
- 認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることが出来る社会の実現に向けた取組を推進
 - 「認知症施策推進大綱（令和元年6月18日）」（別添）では、認知症の人や家族の視点を重視しながら、「共生」と「予防」を両輪として施策を推進していくことを基本的な考えとされ、認知症の人やその家族の意見を踏まえて推進することが求められている

市の現状

- 調布市版チームオレンジの設置、通いの場の充実
 - オレンジデイ（令和5年開設）
 - 若年性認知症の方2人がウェイターを勤めるカフェ（1回/月開催）
 - 神代団地 出張相談窓口のフリースペースで、認知症サポート月間に向けたボランティア活動
 - オレンジの木（令和5年開設）当事者とその家族のミーティング（1回/月開催）
 - 認知症サポーターステップアップ講座
 - チームオレンジの概要、当事者インタビューの視聴、地域ごとに支援可能なサポートをグループワークで検討 ⇒認知症サポート月間のボランティア募集、チームオレンジの取組募集
- 認知症検診の実施
 - もの忘れ予防検診（令和4年開始） 74歳個別通知+65~79歳希望者 185名受診
 - 疑いのある方には、医療機関による適切な治療、包括等が電話などによる定期連絡・受診確認
- 認知症地域支援推進員による普及啓発、認知症疾患医療センターとの連携
 - 認知症サポート月間（令和3年開始）
 - 毎年9月、認知症の啓発イベントを実施。「認知症を知ろう・聞こう・語ろう」をテーマに、認知症サポーター、包括、認知症疾患医療センター等の関係機関・民間団体の協力を得て実施

課題

- 「共生社会の実現を推進するための認知症基本法（令和5年6月16日）」では、認知症の人を含めた一人ひとりが、その個性と能力を十分発揮し、相互に人格と個性の尊重、共生する社会の実現が求められている。障壁となるものを除去することで社会の対等な構成員として安全安心した自立した日常生活営むことができること、本人の意見を表明する機会、および活動に参画する機会の確保を通じて、その個性と能力を十分に発揮することが求められている
 - 認知症に関する相談窓口の認知度
 - 認知症の人やその家族を支えるための取組み



(令和4年度調布市民福祉ニーズ調査)

現状・課題(続)

- 認知症連携会議で、「認知症の気づき～受診前」、「受診後～サービス利用前」、「介護保険サービスを利用した段階」での、当事者、家族、市と他機関ごとの課題・取組案などを整理
 - 広報、情報発信の課題
 - ・認知症への知識・情報不足。早期受診・治療、習慣等の改善・対策の必要性や効果への理解不足
 - ・認知症ガイドブックの認知不足。相談先がない・わからない。就労世代への情報発信
 - 居場所、繋がる場の確保
 - ・サークルや通いの場等への継続した参加
 - ・地域との繋がりや役割を持てる活動、趣味などを共有できる場、認知症と共に暮らす心配や不安を語れる場、認知症の進行について話し合える場（当事者同士、家族同士など）の充実
 - 介護サービスの充実、多様性
 - ・当事者の揺れる気持ちや家族の苦しい胸の内に寄り添う伴走支援
 - ・介護サービスの未利用により、支援が途切れがち。切れない関係の構築



第9期計画での取組検討(案)

- 既存の計画を着実に進めるとともに、共生社会実現に向けて下記内容について取り組む
- 認知症の正しい知識の普及啓発
 - ・認知症サポーター養成講座の実施拡大。子ども世代への講座拡大
 - 【KPI：認知症サポーター 累計16,000人（第9期計画期間中）】
 - ・認知症サポーターステップアップ講座の充実
 - 【KPI：認知症予防の取組意向（取り組んでいる、取り組む） 75%（第9期計画期間中）】
- 早期の支援・相談
 - ・もの忘れ予防検診の実施状況を検証する。医師会とも連携し、医療受診から地域包括支援センターへ相談する体制づくり、早期の環境整備、生活・運動習慣の改善、認知症ケアパスに沿った医療・介護による支援
 - ・相談窓口、認知症ガイドブックの周知
 - 【KPI：認知症相談窓口の認知度 35%（第9期計画期間中）】
- 認知症当事者の意見・意思に基づくまちづくりの推進
 - ・認知症カフェ、だれでもカフェ等の当事者が社会参加できる場の充実・実現
 - ・当事者の声、希望を反映した活動への展開
 - ・当事者が参加してみようと思える取組の仕掛けづくり
 - ・認知症の特性を踏まえた介護保険サービス（認知症対応型グループホーム、小規模多機能型居宅介護、認知症対応型通所介護等）の整備・質の向上
- 地域で支える仕組みづくり
 - ・チームオレンジの育成
 - ・声掛け訓練、認知症にやさしいまちづくりの具体化
 - ・スーパー、金融機関、交通機関など生活に直結した場での理解促進
 - ・認知症ケアプログラムの事業拡大・効果検証（継続）
 - ・徘徊高齢者探知システムの検討
- 認知症施策推進計画の策定
 - ・認知症当事者、家族、医療・介護等の視点に基づく計画の策定・検討